

協働事業評価シート

部課名	産業観光部 観光課	令和元年度
記入団体名	川越きもの日実行委員会	

予算事業名	協働の推進	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>
-------	-------	--

協働事業名称	川越きもの日事業	
協働事業の概要	<p>川越きもの日実行委員会では、毎月8のつく日を「川越きもの日」として、様々な活動を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「きものファッションショー」 日時：5月18日 場所：旧山崎家別邸 参加者：40名 「ゆかたファッションショー」 日時：8月18日 場所：蓮馨寺 参加者：48名 「きもの供養」 日時：11月18日 場所：蓮馨寺呑龍堂 参加者：25名 供養着物：40枚 「きもので初詣」 日時：1月18日 場所：喜多院、氷川神社等 参加者：46名 	
協働事業の決算額	200,000 円	※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	令和元年 6月 ~ 令和2年 2月	

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評価の視点	実施段階	評 点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	5	5	5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	5	5	5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	4	4	4
4	互いの自主性・自立性を尊重し、行政と市民活動団体等が対等な関係で事業を実施できましたか。	後	5	5	5
5	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	5	4	4.5
6	事業目的に沿った事業内容を実施することができましたか。	後	4	4	4
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	5	4	4.5

合計点数	32 点
------	------



「ゆかたファッションショー」の様子

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

実行委員の皆さんの精力的な活動によって、本市にはきもの姿で楽しむ観光客が年々増加しています。また、全国的にも体験型観光が求められている中、「きもので街歩き」は本市の大きな魅力の一つであり、様々な場面でPRポイントとなります。

今後も、きもの日実行委員会と市で協力できるイベントがあれば、積極的に情報交換をし、更に広く川越と着物をPRしていきたいと思えます。

【市民活動団体等】

前年まで年1回の実施であったファッションショーを、5月と8月の2回開催しました。

また、昨年からは開始した「きもの供養」を引き続き実施し、40着のきものを供養しました。供養後のきものははぎれにして販売したり、そのままの形できものの展示即売会を行ったりなど、活用の幅を広げていきました。来年度は「きもの供養」の回数を2回に増やす計画です。

2月18日をもって蓮馨寺講堂で行っているきもの日イベントが100回記念を迎えたため、今後より一層イベントに力を入れていきたいと考えています。

きもの日協賛店もアピールしていくことで、更なる集客と川越のPRに努めていきます。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

		総合評価
A	8名	当該協働事業を実施したことで、地域課題の解決につながるなど、適切な協働事業として評価できるものであった。
B	1名	ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。
C	0名	当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。
D	0名	協働事業としてうまく機能しなかった。
		A

【事業に関するコメント】

・行政と団体の自己評価も高く、趣旨は悪くないと思うが、川越らしさ、川越のまちづくりとの関係など、いくつか課題はある。

・京都、鎌倉や浅草と比べてもそんな色のないほど観光客の着物姿が大変多く目につくようになり、嬉しい限りです。一番街や菓子屋横丁、氷川神社などを着物姿で散策している姿を見ると川越の変化が良くわかり楽しいです。

- ・イベントの数も増え、また、協賛店のアピールやお茶席、伝統和芸を着物姿で楽しむ観光客の増加に繋がれば新しい川越観光の魅力に繋がると思います。
- ・すでにイベントとして定着した感もある事業ですが、今後は行政・団体双方が知恵を出し合って、新しい取り組みをしていただければと思います。
- ・以前は「着物コンテスト」で勝負を争ったが、近年は「ファッションショー」として定着し、出席者が楽しんでいるのも良い。
- ・「着物供養」も一つのアイデアであり、今後もどんなものが出てくるのか期待しています。
- ・協賛店からの景品提供など、観光協会とのコラボもうまくいっている。
- ・川越市内を着物姿で歩く若者の姿が目立ちます。川越市の大きな魅力でもあると思います。他の事業とも連携して活動を展開していただきたいと思います。
- ・継続は「力」なり。さらに創意工夫し、下駄履きで歩ける街、着物姿が似合う街川越のイメージを広めていただきたい。
- ・多彩な活動の成果として、「きもの姿」が川越での身近な風景となってきたようです。できれば成果の定量化を試みてはいかがかと思います。いつれにせよ継続活動をお願いします。

協働事業評価シート

部課名	産業観光部 観光課	令和元年度
記入団体名	小江戸川越粋な伝統和芸を守り育てる会	

予算事業名	協働の推進	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>
-------	-------	--

協働事業名称	小江戸川越粋な伝統和芸を守り育てる会事業	
協働事業の概要	<p>小江戸川越の更なる活力の向上に資するため、小江戸川越で培われた粋な伝統を守り育てることを目的とし、様々な事業やサービスを提供する。 小江戸蔵里・八州亭において、4月から3月までに毎月第二、第四土曜日の夕方に「伝統和芸鑑賞会」を開催。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2017年度 参加人数633名（22回開催） ・2018年度 参加人数674名（22回開催） ・2019年度 参加人数565名（1月11日開催分までで17回開催。残り5回で参加者が700名を超える見通し） <p>今年の「伝統和芸鑑賞会」の演目内容は、津軽三味線、端唄、箏、幫間芸、日本舞踊、篠笛、かっぽれ、玉すだれ、芸妓衆、地唄舞、琉球舞踊と三線を開催。</p>	
協働事業の決算額	200,000 円	※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	令和元年 6月 8日 ~ 令和2年 2月 22日	

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評価の視点	実施段階	評 点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	4	4	4
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	4	5	4.5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	4	4	4
4	互いの自主性・自立性を尊重し、行政と市民活動団体等が対等な関係で事業を実施できましたか。	後	5	5	5
5	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	5	5	5
6	事業目的に沿った事業内容を実施することができましたか。	後	4	5	4.5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	4	5	4.5

合計点数	31.5 点
------	--------



伝統和芸鑑賞会の様子

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

小江戸川越粋な伝統和芸を守り育てる会の皆さんの精力的な活動によって、月2回の鑑賞会も滞りなく開催出来ました。

広報活動の成果もあり、伝統和芸鑑賞会を今年度も「伝統和芸鑑賞会」の入場者数が増加しているとのこと。

市も協力して広報活動をし、引き続き伝統和芸鑑賞会を盛り上げていきたいと考えています。

【市民活動団体等】

今年度も「伝統和芸鑑賞会」の入場者数が増加していることは、川越市と連携を深めて、広報活動を行ってきた成果が表れていると思います。定着してきたイベントをさらに盛りあげていくため、常に新規の演者の開拓も必要です。

今年は課題としていた観光客（外国人観光客も含めて）の集客に向けて、イーグルバスでの車内広告、案内所でのポスター掲示、英語でのチラシ作成など販促を強化した結果が少しずつ出てきました。

今後、イベントに参加されるお客様の満足度向上のため、イベント内容の充実と集客の徹底をはかり、小江戸川越を和芸の文化で盛り上げていきたいと思っています。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

A	5名	当該協働事業を実施したことで、地域課題の解決につながるなど、適切な協働事業として評価できるものであった。	総合評価 B
B	5名	ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	
C	0名	当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D	0名	協働事業としてうまく機能しなかった。	

【事業に関するコメント】

・伝統継承的事業は大切だが、これからの川越の町づくり政策との連携のあり方を常に問う、フィードバック的視点が大切

・入場者数の増加は協働事業としてうまく機能してきた表れだと思います。今後は着物姿の観光客が夜間に伝統和芸を楽しみ、宿泊観光客数の増加につながるような工夫をしていただくとよいと思います。

- ・今年度は入場者数が増え、その点は事業として定着しつつあることの表れだと思います。日本、川越独自の芸能をひとつのコンテンツとしてさらに定着させるためには、民間団体でしかなしえない発想と行政の発信力あってのことだと思いますので、ひきつづきがんばっていただきたいと思います。
- ・小江戸川越の和芸をますます広げてください。
- ・協働事業の成果として、入場者数及びリピーターの増加は喜ばしいことであるが、今一つインパクトが感じられない。さらなる工夫、催促強化を期待します。
- ・SNSの活用は期待できるのではないか。英語を大学生に頼んで発信するのはよいのではないか。川越の旦那衆の思いを発表で聞くことができてよかった。月2回の開催には団体の努力を感じる。
- ・小江戸川越の文化の多様性、伝統芸能の保存にもつながると思います。今後とも様々な情報発信の機会をとらえて、多くの人に伝統和芸を知っていただくようお願いいたします。ポスターを掲示されていますが、次回開催される月日内容を一行でよいので書かれることを希望します。
- ・継続していただきたい事業である。参加者層を広げるために年24回の鑑賞会のうち2回程度は無料にするなどは無理だろうか。
- ・年を追って確実に拡大充実していると感じます。市民レベルでの諸芸伝承の大事な発表の場として継続してPRや発展をお願いします。川越観光コースの定番になればうれしいことと思います。

協働事業評価シート

部課名	産業観光部農政課
記入団体名	川越サツマイモ商品振興会

令和元年度

予算事業名	協働の推進
-------	-------

新規 <input type="checkbox"/>	継続 <input checked="" type="checkbox"/>
-----------------------------	--

協働事業名称	サツマイモまんが資料館開設事業	
協働事業の概要	<p>2018年に、12月1日を「紅赤いもの日」として制定し、且つ「川越地方サツマイモ商品文化世界一」宣言も行い、広く市民に周知すると共に産業観光の振興を図った。継続事業3年目となる本年度は、更なる川越地方のサツマイモ産業観光の発展と商品文化の振興を考え、伝統川越いも等の情報発信の拠点として、蔵造りの通りに「サツマイモまんが資料館」をオープンさせた。 1：12月1日（第2回紅赤いもの日）に「サツマイモまんが資料館&川越いも学校」を、（川越市指定文化財）紋蔵庵蔵の街店2階（約15坪）に、各関係者を集め、無事開設することができた。またホームページやリーフレット等も作成し、見学利用等の案内の告知を図った。 2：今後は、「おいもサロン」や「川越いも文化継承者」の育成のための活動を行い、さらに川越地方のサツマイモ文化の振興と産業観光の質を高めたい。</p>	
協働事業の決算額		円 ※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	令和元年6月1日 ～ 令和2年2月10日	

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評価の視点	実施段階	評 点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	4	4	4
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	5	5	5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	4	5	4.5
4	互いの自主性・自立性を尊重し、行政と市民活動団体等が対等な関係で事業を実施できましたか。	後	5	5	5
5	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	5	5	5
6	事業目的に沿った事業内容を実施することができましたか。	後	5	5	5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	5	5	5

合計点数	33.5 点
------	--------



サツマイモまんが資料館
の展示の様子

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

サツマイモまんが資料館の開設に向けた協働事業であったが、川越といえば「サツマイモ」という理由を学ぶことができる場所ができたことは川越観光の一つになると感じた。

また、サツマイモ資料館が閉鎖してからも川越サツマイモ商品振興会が継続して文化を守っていただいたことがこのサツマイモまんが資料館の開設に繋がったものだと思う。

先人から受け継いだものを後世に残すことはとても大変なことだと思うが、このような資料館を通じて広く残していければと感じた。

【市民活動団体等】

サツマイモまんが資料館を開設するに当たって、紋蔵庵の小泉昌弘社長のご厚意で、無償で会場を提供していただいたのが、一番大きな援助であった。また、多くの方々より開設のための協賛金を支援していただき、課題は多くあったが、何とか目標の日程にオープンすることができた。資料館としては、まだ不十分なところが多々あり、今後も、維持運営するに当たって、当会の会員のほか、川越市産業観光部や観光協会などより資金や人などの支援をしていただき、地域活性化のために努めていきたい。また、市立博物館や図書館なども積極的に当館に対して支援していただきたいと思っている。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

A	7名	当該協働事業を実施したことで、地域課題の解決につながるなど、適切な協働事業として評価できるものであった。	総合評価 A
B	3名	ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	
C	0名	当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D	0名	協働事業としてうまく機能しなかった。	

【事業に関するコメント】

・この事業も伝統継承的的事业だが、今後のありかたとして市民にどう普及させ、定着させるか、後継する方法などの課題がある。

・継続事業三年目の最終年にサツマイモまんが資料館が開設できたことは大変うれしく感じています。今後、内容の充実にも努め産業観光の一翼を担っていただきたい。収支決算書、収入の部の事業収入の内訳を知りたい。

・情報発信の拠点を開設することができたということは活動の活発さと意欲の高さを示すものであり、その点評価したいと思います。今後、どのようにこれを維持していくのが課題になると思います。市民に関心をもってもらうためにも、行政との良好な関係を維持することが求められますので、その点に配慮していただきたいと思います。

・川越のさつまいもを川越の名品としてこれから広めてください。

・今回は事業目的が「サツマイモまんが資料館」の開設と非常に明確であったことが成功理由であると思う。今後、維持運営にあたり多くの賛同者を募り、地域活性化の一助になることを期待したい。

・3年目に資料館がオープンとはすばらしい。多様な民間の施設があることも川越の観光の魅力につながる。行政は支援を何らかの形で続けていくべきと考える。

・サツマイモまんが資料館が開設されたがPRが乏しいように思われます。資料館を拠点に川越いも文化を積極的に展開していただきたいと思います。

・活動団体と行政だけの協働にとどまらず、商業界、教育界などの支援もあり、その活動に対する期待は大である。

・資料館が開館できたことは成果大であるが、観光振興に資するためには開館日を大幅に増やす必要があると思います。ボランティア等の協力等検討していただいて、さらに活動をお願いします。

協働事業評価シート

部課名	総務部人権推進課	令和元年度
記入団体名	「テレジン収容所の若い画家たち展」実行委員会	

予算事業名	協働の推進	新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/>
-------	-------	--

協働事業名称	テレジン収容所の若い画家たち展	
協働事業の概要	<p>第二次世界大戦当時にテレジン収容所にいたユダヤ人の子どもたちが描いた絵の展示と、「テレジン もう蝶々はいない」と題して朗読と歌のコンサートを行った。</p> <p>過酷な収容所生活の中で一生懸命生きて子どもたちと、それを支えた大人たちのことを伝えることで、市民に、一人一人の命が大切にされるという、人権の一番の基本というべきものについて関心を持ってもらうことができ、人権尊重意識の普及高揚の一助となった。</p>	
協働事業の決算額	200,000 円	<small>※委託額及び補助金額を記載</small>
事業の実施期間	令和元年7月23日 ～ 令和元年7月28日	

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
 ・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評価の視点	実施段階	評点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	4	5	4.5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	5	5	5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	5	5	5
4	互いの自主性・自立性を尊重し、行政と市民活動団体等が対等な関係で事業を実施できましたか。	後	4	5	4.5
5	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	4	5	4.5
6	事業目的に沿った事業内容を実施することができましたか。	後	4	5	4.5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	5	5	5

合計点数	33 点
------	------



テレジン収容所の若い
画家たち展の様子

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

全体的に、協働事業として適切な役割分担で事業を進められたと思います。
 事業の実施期間は、連日多くのお客様が絵の展示会に足を運んでくださいました。
 また、歌と朗読のコンサートの際には、会場に入りきれないほどお客様がいらっしやり、大盛況となりました。
 アンケート結果からも、命の尊さや生きることの喜び、そして平和の大切さを改めて感じることができた等の回答が多く、人権思想の普及高揚に大きく貢献する事業であったように感じています。

【市民活動団体等】

今回提案型協働事業補助金の申請をし、決定から事業の実施（7月23日～28日）迄短かったのが広報活動に苦勞いたしました。：特にテレジン収容所の中で絵を描いていた10歳から15歳の子どもたちと同じような年齢の小・中学生に沢山見てほしいという実行委員会の強い願いがあったので教育委員会、人権推進課のご理解とご協力は大変嬉しいことでした。人権課からの事前の要請等のご配慮があったので、訪問した学校の中には玄関先に歓迎の立て看板を出して待っていてくださったり、校長室にまで通していただき熱心に私たちの説明を聞いていただきました。会場には校長先生はじめ先生方も沢山お越しいただきました。市外・県外からも延1500人の方が来場してくださり、熱心にアンケートを書いてくださったりお褒めの言葉を頂いて、今後の活動の強い励みになりました。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

		総合評価
A	7名	A
B	3名	
C	0名	
D	0名	

【事業に関するコメント】

- ・協働事業のメリットである行政との連携がよくできていた。また事業の内容の特質がよく生かされている。
- ・短期間で準備を進めることは大変であり、来場者も多く来られたようでよかったです。アンケートの年齢構成や男女比、その内容を知りたい。
- ・人権意識の向上は本質的には行政が担うべき部分が多い中で市民団体の側から事業を提案し、実施するというのは、市民活動のあり方として理にかなったものだといえると思います。

今回は「テレジン収容所」がテーマになりましたが、他にも様々なものが考えられると思いますのでそうした知恵を絞りながらさらに発展させつつ進めていただければと思います。

- ・事業対象者が小中学生をはじめ、学生であったので、行政側の対応として担当課以外に教育委員会をまきこんでいて協働事業として評価できる。いくつかの今後の課題が団体側からあげられており、次年度はその辺をクリアーにしてくれることを期待したい。

- ・学校と連携できたことは協働事業の中で担当課の働きとして評価できる。役割分担がうまくいったのではないかと。継続してほしい事業。

- ・子どもたちの夏休みに開催され、命の尊さや生きることの喜び、平和の大切さを改めて感じたことと思います。今後とも一層盛り上げていただきたいと思います。

- ・市民の人権意識の啓発や向上のためのひとつの手法であると思う。

- ・市と団体とで事前広報活動がうまく機能したようです。その結果が集客の多さに表れ、またこの川越でナチスの迫害から生命の尊さを考える活動ができたと思います。門戸をさらに広げた活動を期待します。

協働事業評価シート（第三者用）

部課名	市民部 防犯・交通安全課	令和元年度
記入団体名	特定非営利活動法人空き家対策協会	

予算事業名	協働の推進	新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/>
-------	-------	--

協働事業名称	空き家対策セミナーおよび個別相談の実施による不良空き家の発生予防活動	
協働事業の概要	<p>【相続・空き家対策セミナー】 相続と空き家の関係や、相続を円滑に進めるための方法などを情報提供することで、受講者の方の意識啓発を図り、不良空き家が発生しないように対策を促すことができた。 日 時 令和2年1月19日（日）午後2時～4時 場 所 ウェスタ川越 会議室1、2 受講者数 96人</p> <p>【個別相談会】 すでに空き家で困っている方に対し、相談員による個別相談を実施し、解決に向けて具体的な提案を行うことができた。 日 時 令和2年1月25日（土）午前9時～午後4時 相談者数 15組</p>	
協働事業の決算額	34,876 円	※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	令和1年6月11日 ～ 令和2年2月3日	

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	④

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
 ・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評 価 の 視 点	実施段階	評 点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中前	4	4	4
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中前	5	5	5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	4	5	4.5
4	互いの自主性・自立性を尊重し、行政と市民活動団体等が対等な関係で事業を実施できましたか。	後	5	5	5
5	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	5	5	5
6	事業目的に沿った事業内容を実施することができましたか。	後	5	3	4
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	5	4	4.5

合計点数	32 点
------	------



セミナーの様子

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

今回、初めて協働事業として協力しました。本セミナー及び個別相談会のチラシを全自治会に回覧したところ、セミナーはほぼ満席、個別相談会も定員を上回る予約があるなど、非常に多くの方の参加がありました。

改めて、相続や空き家については、皆さんが関心を持っている、または実際に悩みを抱えている問題であるということを感じました。

本市の川越市空き家等対策計画においても、相談会の開催については、空き家の発生を予防するために必要な取組の一つとして掲げています。しかし、相続が空き家発生の大きな要因になっていることから、発生予防を促すには専門的な知識が必要です。今回、専門家の方から、相続と空き家の関係や、相続手続きを円滑に進めるためのポイントなどを具体的に話していただき、多くの方に情報提供や啓発ができたことは、空き家の発生予防に大きく寄与できたと考えています。

今後も、引き続き協働事業として継続していただきたい事業であると考えております。

【市民活動団体等】

できるだけ費用をかけずに実施するようにいたしました。市担当課のご協力もあり、自治会長へのチラシの郵送費用は削ることができました。予算と比較すると大幅に少ない金額で実施することができたのは良かったと思います。

セミナーについては、前年比約2倍の来場者となり、概ね想定どおりの結果となりました。個別相談についても想定とおりの予約数となりました。

活動に制限がわかりましたので、一部の市民の期待には応えられない場面はありましたが、セミナー時のアンケート結果などを見ると、概ね参加者の満足は得られたと思っております。

この協働事業の制度は、地域における空き家対策を推進するという面から見ると、ちょっと不向きかなと感じました。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

			総合評価
A	0名	当該協働事業を実施したことで、地域課題の解決につながるなど、適切な協働事業として評価できるものであった。	C
B	3名	ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	
C	7名	当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D	0名	協働事業としてうまく機能しなかった。	

【事業に関するコメント】

- ・協働事業としての意味を市民にどのように理解させるかが現在の課題
- ・セミナー参加者96名、非常に盛況だったように思います。セミナーの内容が相続に関することが主で、空き家を発生させない、空き家になった場合はどうするかといった実践的なことも含まれるとよいと思います。個別相談の内容を知りたいです。

- ・「協働」により「何」を「どのように」するのか、その点について整理する必要があるように思います。行政の力を借りなければなしえないこととは何か、特に空き家対策の場合、行政の関心ごとであることは確かなので、その部分と連携させていくことがまず必要なのではないでしょうか。
- ・協働事業が企業への営利目的につながらないよう配慮が必要
- ・空き家の問題として相続の話が多かった。現在の空き家をどう活用するかの話を知りたかったです。
- ・セミナー参加者および個別相談会希望者は想定を上回り、その意味では一定の評価がある（関心度が高い）しかし、協働事業としてみると、行政と市民団体として意識の格差があり、十分に検討する必要があると感じた。
- ・団体がいうように、この事業と目的をきちんと整理したほうがよい。
- ・空き家の問題は大変複雑です。空き家対策、不良空き家が発生しないような対策が学べるよう期待します。
- ・少子高齢化社会における空き家対策は行政の課題の一つである。もう少し行政が積極的に表に出てきてほしいのでは。
- ・空き家や相続といったことが身近な世代にとって必要なセミナーだが、市の協働事業としては難しさを感じる。空き家を市や市民がどうやって活用し、市の発展や市民の活動の助けにできるかを考える方向が必要。

協働事業評価シート

部課名	文化芸術振興課	令和元年度
記入団体名	ViewCasArts	

予算事業名	協働の推進	新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/>
-------	-------	--

協働事業名称	Painters Street（屋外ライブペイント事業）及びその作品展示	
協働事業の概要	<p>ユニクス川越で開催されたおとまち小江戸秋まつりの一環として、Painters Street（ペインターズストリート）を実施。様々な人が行き交うなか、屋外でアーティストが作品を製作。普段なかなか見ることのできない製作過程を公開することで、一般の方がアートに興味を持つきっかけづくりとした。また、子どもを対象とした手形アートイベントを行うことで、参加者とアーティストとの交流の場にもなった。</p> <p>日時 令和元年10月27日（土）10時～15時 会場 ユニクス川越 ふれあい広場 参加アーティスト：5名（絵画：3名 フェイスペイント：1名 写真：1名） 内容：ペイント空間をリアルタイムで見る・感じることの出来る様なアーティストが自分の作品を描く。また、お客さんがアートに触れる機会として参加可能なペイント企画を実施。</p>	
協働事業の決算額	6,385 円	※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	令和元年10月27日 ～ 令和元年10月27日	

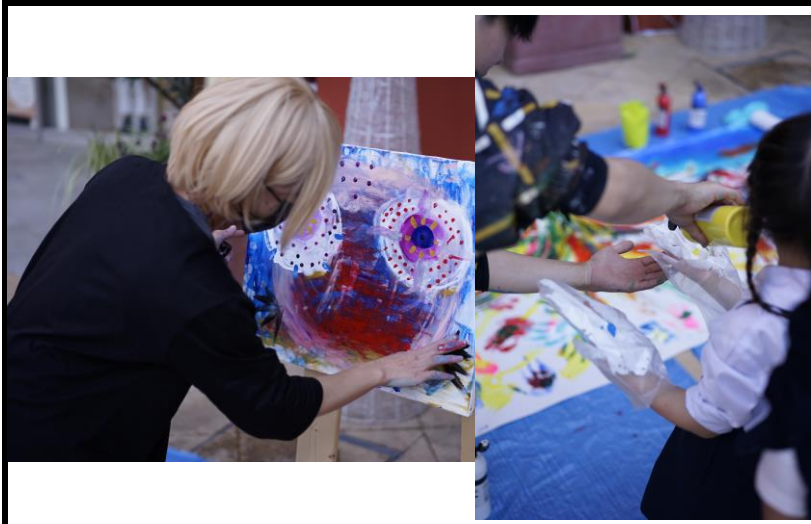
協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
 ・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評価の視点	実施段階	評 点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	3	3	3
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	4	3	3.5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	4	4	4
4	互いの自主性・自立性を尊重し、行政と市民活動団体等が対等な関係で事業を実施できましたか。	後	4	3	3.5
5	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	4	2	3
6	事業目的に沿った事業内容を実施することができましたか。	後	3	3	3
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	4	4	4

合計点数	24 点
------	------



Painters Street
の様子

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

通常はアーティストが作品を製作する過程というのはなかなか見る機会がなく、まして屋外で公開しているというのは大変珍しく、行き交う人々の興味を非常に惹きつけるイベントだった。アーティスト一人ひとりにとっては作品発表の場になるとともに、参加したアーティスト同士の交流の場にもなっている。また、子どもを対象とした手形アートイベントを開催するなどアーティストと来場者との交流の機会も創出し、来場者がよりアートに親しみを持つことが出来たと考える。屋外イベントのためどうしても天候に左右されてしまう部分はあるものの、市民の方が気軽にアートに触れ、楽しむことが出来る大変良い事業であると考え、ぜひ継続開催を期待する。

【市民活動団体等】

広報以外の面で依頼のタイミングを逃してしまったので、次回以降の協働事業の際は事前に依頼事項をまとめ早めに相談できる様に準備をしたいと思います。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

			総合評価
A	1名	当該協働事業を実施したことで、地域課題の解決につながるなど、適切な協働事業として評価できるものであった。	B
B	5名	ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	
C	4名	当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D	0名	協働事業としてうまく機能しなかった。	

【事業に関するコメント】

- ・市民の理解をどう得るかが課題の一つであったが、1年目は子どもをどのように取り入れるかに工夫をした点は評価できる。
- ・行政と活動団体の打ち合わせを充分に行ってほしい。アートやアーティストが気軽に市民と触れ合うよい事業と思う。改善しながら継続してほしい。
- ・新規事業ということもあり、協働を進めていく中で諸々の課題が発見されたとのことなので、そこは一つずつ解消していくことを期待します。

一方でテーマとしてはユニークで行政としても支援する価値のあるものだと思いますので、行政・団体双方の関係のあり方、特にお互いのどこを補い合うのか知恵を絞っていただきたいと思います。

- ・相対的に評価が低く、今後続けるためには事前の相互理解をしたうえで判断するのが適当であると考えます。

- ・来場者がよりアートに親しみを持つことができるよう早めに準備されることを望みます。

- ・計画どおり事業を実施できなかったことは残念であった。しかし、ユニークな事業であり、芸術を通じた市民との交流は魅力的である。このまちのあちらこちらで絵筆を持った人が増えることを期待したい。

- ・芸術の政策や体験といった新機軸の試みだったが、行政と団体の連携が機能しなかったようで残念な成果と思う。まつりなどのチャンスだけでなく常時芸術家が制作活動ができる場と市民も参加できる環境を作り上げられないか検討すべきだと思います。

協働事業評価シート

部課名	市民課
記入団体名	原発避難者と歩む@川越

令和元年度

予算事業名	協働の推進
-------	-------

新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/>
--

協働事業名称	原発避難者と共に地域共生推進事業	
協働事業の概要	<p>「同情ではなく共感へ・地域共生」をコンセプトに、東日本大震災の記憶を風化させないよう、避難している方との交流や講演会等の活動を通じ、避難者が地域で孤立感や疎外感を感じないように地域ぐるみで理解し支え合いができる地域づくりを目指す。</p> <p>日時 令和元年12月21日（土）14:00～16:30 会場 ウェスタ川越多目的ホール 内容 YUKARIが歌う9年目の福島 ～想い続ける3.11 原発避難者の今～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原発避難者とは ・YUKARIさんによる講演 みんなで歌おう♪ ・原発事故後の苦悩と未来への希望（トークセッション） 	
協働事業の決算額	141,337 円	※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	2019年 6月 11日 ～ 2019年12 月 21日	

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
 ・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評価の視点	実施段階	評 点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	4	3	3.5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	4	5	4.5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	4	5	4.5
4	互いの自主性・自立性を尊重し、行政と市民活動団体等が対等な関係で事業を実施できましたか。	後	4	5	4.5
5	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	5	4	4.5
6	事業目的に沿った事業内容を実施することができましたか。	後	4	4	4
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	4	3	3.5

合計点数	29 点
------	------



YUKARIが歌う
9年目の福島
イベントの様子

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

原発事故から9年経ったにもかかわらず、今なお避難を余儀なくされている方が身近にいるということを改めて知りました。

歌やトークセッションは福島の方言を紹介するコーナー等、親しみやすい内容でしたが、一方、被爆による病気のことや故郷に戻れない苦悩についても伺うことができました。

少しでも早く避難者の方の生活が改善するように、多くの人の共感や具体的な支援体制が求められていると感じました。

【市民活動団体等】

今回、初めて協働事業への参加だったので仕組みや制度を把握しきれず、ウェスタ川越の会場費104,400円が経費として認められず、結果的に赤字になってしまいました。ウェスタ川越の予約は、一年前から予約可能ですが支払いが十日以内のため、協働事業申請前に予約してしまいました。このようなことから人気の高いウェスタ川越を申請前に予約することが難しいとわかりました。また、所轄担当の市民課との打ち合わせも足りなかったと反省しております。

しかし事業自体は、チケット販売の際にスタッフが避難者の現状を語りながら、一枚一枚手売りで販売した為、原発被害者に興味のある方が多く集まり、いわき弁講座や質疑応答など、闊達な意見が多くみられ盛り上がりました。第一部のYUKARIコンサートでは、避難者の方々も「久しぶりに故郷を思い出し、また明日から頑張ろうという気持ちになりました」と何人も号泣されていました。来場された方々の中にも「福島」に縁がある方も多くみられ、出口に立っていた避難当事者に多くの励ましのお言葉をいただきました。

「まだ川越に避難者がいるとは知らなかった」や「原発事故はもう終わったものと思っていた」や「自分に何かできることはないか？」など、終了後のアンケートに書かれていて、開催の意義があったと手ごたえを感じました。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

			総合評価
A	1名	当該協働事業を実施したことで、地域課題の解決につながるなど、適切な協働事業として評価できるものであった。	B
B	8名	ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	
C	1名	当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D	0名	協働事業としてうまく機能しなかった。	

【事業に関するコメント】

・協働事業として実施し続ける事の難しさを有する事業の1つであり市民の理解をどのように得られるかも課題であると感じるが、継続することで課題解決につながると思う。

・原発の廃炉は何年で終わるのか先が見えないなか、原発事故により避難された方々が川越やその周辺に生活していることは知っていました。被ばくや故郷に戻れないもどかしさなどを考える、よい機会になったとおもいます。アンケートの内容を知りたい。

- ・会場の利用等について諸々トラブルがあったとのことですが、これについては制度的なものでもあるので、少しずつ解消していただければと思います。
- ・協働事業を行う以前に会場の情報等、事前に知っておくべき点が多々あったことが反省点のようですね。これらの反省点を踏まえ、より良い協働事業を実施され、当初の目的が達成されることを望みます（行政&団体ともに）
- ・ウェスタの会場費が認められないのは制度上の欠陥で気の毒。採用された場合は経費として認められるよう改善すべき。
- ・当日、支援者として市民の入会者が多かったとのこと、高く評価したい。
- ・この事業を市民課が協働として行ったことに対して行政のイメージアップになった。弱い立場の人に寄り添う市政と感じて市民として誇らしく思った。
- ・9年前福島から避難された方にお食事を提供する機会がありました。大変喜んでくださいました。昨日のように思い出されます。うまく進まなかった点もあったかと思いますが、来年度も多くの方が参加できる事業になることを希望します。
- ・原発避難者に対する川越市と市民のメッセージとして意義ある事業と思う。今後これを継続するには工夫が必要であろう。
- ・事業目的は充分理解できるし、市民への再認識や共感共生は重要と考えるが内容がコンサートメインのような印象をうける（パンフレット等）避難者と市住民とのかわりや課題に正面向いた取り組みになればよいと考える。

協働事業評価シート

部課名	食品・環境衛生課
記入団体名	小江戸地域猫の会

令和元年度

予算事業名	協働の推進
-------	-------

新規 <input type="checkbox"/>	継続 <input checked="" type="checkbox"/>
-----------------------------	--

協働事業名称	地域猫活動推進事業		
協働事業の概要	「川越市飼い主のいない猫の不妊・去勢手術に係る補助金事業」において、猫の捕獲に協力。『保護猫譲渡会』を定期開催し、飼い主のいない猫の臨時診療所を開設した。『動物愛護週間パネル展示』及び『飼い主のいない猫のシンポジウム』を行い、補助金事業について広報活動を実施した。		
協働事業の決算額	65,000	円	※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	令和元年 6月 1日 ~ 令和2年 2月 末日		

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評価の視点	実施段階	評 点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	4	4	4
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中前	4	5	4.5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	5	5	5
4	互いの自主性・自立性を尊重し、行政と市民活動団体等が対等な関係で事業を実施できましたか。	後	5	5	5
5	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	5	5	5
6	事業目的に沿った事業内容を実施することができましたか。	後	5	5	5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	5	5	5

合計点数	33.5 点
------	--------



保護猫譲渡会の様子

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

- この協働事業も3年目になり「川越市飼い主のいない猫の不妊・去勢手術に対する補助金事業」について、「小江戸地域猫の会」が、多くの場面で周知してくれました。
- 猫の捕獲が困難な市民に代わり、保健所では行えない猫の捕獲協力をしていただき、市民にも喜ばれております。
- 担当課としては、「小江戸地域猫の会」主催事業の広報活動及びシンポジウムに協力させていただきました。
- 「小江戸地域猫の会」のたゆまぬ努力のお陰で、3年間の協働事業として行うことができましたことを感謝申し上げます。来年からは協働委託事業に移行する予定ですが、引き続きよろしく願いいたします。

【市民活動団体等】

協働事業の活動の中で、飼い主のいない猫の問題解決のみでなく、昨今では多頭飼育崩壊の問題が重くのしかかる現状になっています。飼い主のモラルの改善の指導だけでは解決するには難しい内容です。相談をすることを躊躇して問題を大きくしてしまう相談者が複数存在しています。今後どのように対応したらよいか課題として残っています。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

		総合評価
A	8名	A
B	2名	
C	0名	
D	0名	

【事業に関するコメント】

- 3年目であったが、それなりの成果をあげたと思う。今後の継続と更なる市民の理解を目指し頑張りたい。
- 協働事業という、行政と活動団体が対等の立場で取り組んだことは意義があり、今後どのように対処していくのか興味深いものがあります。
- 地味な活動の継続が、課題の周知を達成できたとともに、課題の新たな発見につながっているという印象を持ちましたが、そこはポジティブにとらえたいと思います。

いずれにせよ、それらの課題は行政の力を借りなければならない類いのものだと思いますので、引き続き双方がうまく連携できる仕組みづくりを心がけていただければと思います。

- ・提案型協働事業がその成果を踏まえ、協働委託事業に移行する予定であるという事は、誠に好ましい事であり、この事業の模範例として取り上げられるものと考え

- ・団体の地道な活動に頭が下がる。

- ・「やばいぞ川越市」はとても良かった。他市と比較することで、厳しい状況がわかる。

- ・委託事業となることは素晴らしい。

- ・今後とも、様々な情報発信の機会を捉えて、多くの人々に活動を知っていただけるよう望みます。

- ・委託事業となったことを評価する。

- ・譲渡会や臨時診療所開設の他、捕獲協力まで、協働事業費支給額が少ない中、充分努力されていると理解しました。

- ・継続して、又委託事業として、より拡大される事を期待します。

協働事業評価シート（第三者用）

部課名	こども未来部 こども家庭課
記入団体名	なくそう！「子どもの貧困」川越シンポジウム実行委員会

令和元年度

予算事業名	協働の推進
-------	-------

新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/>
--

協働事業名称	なくそう！「子どもの貧困」川越シンポジウム	
協働事業の概要	本市においても大きな課題である「子どもの貧困」に対応するため、シンポジウムを通じ広く市民へ問題提起を行う。また、関心のある市民がともに考え、学び合う場を提供するとともに、支援活動の立ち上げや運営を支援する。	
協働事業の決算額	200,000 円	※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	令和元年 5 月 27 日 ~ 令和2年 1 月 26 日	

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	⑦

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評 価 の 視 点	実施段階	評 点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	5	5	5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築きましたか。	前・中	5	5	5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	5	5	5
4	互いの自主性・自立性を尊重し、行政と市民活動団体等が対等な関係で事業を実施できましたか。	後	5	5	5
5	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	5	5	5
6	事業目的に沿った事業内容を実施することができましたか。	後	4	5	4.5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	4	5	4.5

合計点数	34 点
------	------

--	--

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

全体として、当該協働事業は期待を超える成果を上げたものと感じています。
 本市においても「子どもの貧困」は大きな課題ではあるものの、国の動向や本市の財政状況を鑑みる限りでは、市が直接大きな財政投資を行うことは困難な状況であるなかで、このような市民活動が1つのうねりとなって広がりを見せたことは、大きな一歩であったように思います。
 来年度以降も、市民団体と市が互いに協働して支援の輪を大きくしていくことが重要であると考えています。事業担当課としても、こうした活動へのサポートや関与の方法について考えてまいりたいと思います。

【市民活動団体等】

本来は行政と市民と一緒に何かやるというのは、簡単そうで簡単ではないはずである。決まり事からくる制約があったり、お互いに遠慮があったりということもあるだろう。だが、「協働事業」ということで、いやが上でも同じテーブルに着かざるを得ないし、またそこで何らかの成果を得たいと思えば自然とできることを模索することになるだろう。仮にこれが「補助金の交付」だけであったとしたら、やはり良くも悪くも市民だけで補助金交付の制約の範囲内の活動を行うということで終わったかもしれない。当然、行政の側にもなんらのインセンティブも働かないから、必要以上に骨を折るようなこともなかっただろう。そして今後さらに協力関係を築いていける土台を作ることができたのも大きな成果であったと思う。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

A	8名	当該協働事業を実施したことで、地域課題の解決につながるなど、適切な協働事業として評価できるものであった。	A
B	2名	ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	
C	0名	当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D	0名	協働事業としてうまく機能しなかった。	
総合評価			

【事業に関するコメント】

- ・社会事業に対応したタイムリーな事業であると思う。協働事業としての意義も大きい。
- ・協働事業という、行政と活動団体が対等の立場で取り組んだことは意義があり、今後どのように対処していくのか興味深いものがあります。
- ・シンポジウムの開催にこぎつけたことは良かったと思います。問題は、「内輪」だけの盛り上がりにとどまらないようにするためにはどうすればよいか、という点に尽きます。

多くの人は、こういった問題に反応する「アンテナ」を持っていないことが見られると思います。他人にアンテナをつけることは難しいですから、反応する内容を伝えていく工夫が今後、求められるのではないかと思います。

- ・支援の輪を広げてください。
- ・提案型協働事業の事業形態は、「補助・助成」が一般的である中で、本事業は「事業協力」という形態をとり、初年度にもかかわらず、大いなる成果が出ている。
- ・今後も当初目的達成のために、プラットフォームの強化に取り組むことを期待します。
- ・それぞれの得意分野として、川越市は「貧困調査の発表」をしたが、数字は見えない貧困を理解するのに役立ち、説得力のある行政の信頼度を高める事につながった。
- ・市民は、市外へのネットワークなど多彩な講師や先進例を紹介できる実行委員にも他分野の人が集い、熱気を感じた。
- ・期待をこえる効果をあげたと思います。
- ・来年度も「子供の貧困」は大きな課題だと思います。市民団体と市の事業担当と協力して解決につなげていけるよう望みます。
- ・行政または市民団体が単独で行うシンポジウムやフォーラムよりも、より良い効果を生む例である。
- ・当初の協働事業目的であった「シンポジウムによる考えるきっかけ作り」を実現したのみならず、子ども食堂やフードパントリー事業への発展拡大を精力的に実施され、素晴らしいと感じます。団体の意識の高さに頭が下がる思いです。今後もよろしくお願いします。

協働事業評価シート

部課名	文化芸術振興課
記入団体名	學のまちkawagoe実行委員会

令和元年度

予算事業名	協働の推進
-------	-------

新規 <input type="checkbox"/>	継続 <input checked="" type="checkbox"/>
-----------------------------	--

協働事業名称	「川越の歴史に触れる朗読会」事業	
協働事業の概要	<p>川越が題材の物語（本）について、朗読会「文学から読み解く川越」を実施。朗読会と併せて、題材となった作品の時代背景の解説や、作品著者を招いての講演も実施した。川越の歴史を文学作品から知る・学ぶ機会を得ること、未来の川越の文化形成、発展に寄与する。</p> <p>実施日時 ①令和元年 6月29日（土）13：45～15：15 ②令和元年 9月28日（土）13：30～15：30 ③令和元年11月16日（土）13：30～15：30 ④令和2年 1月25日（土）13：45～15：40</p> <p>会 場 蓮馨寺 講堂</p>	
協働事業の決算額	200,000 円	※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	令和元年6月29日 ～ 令和2年1月25日	

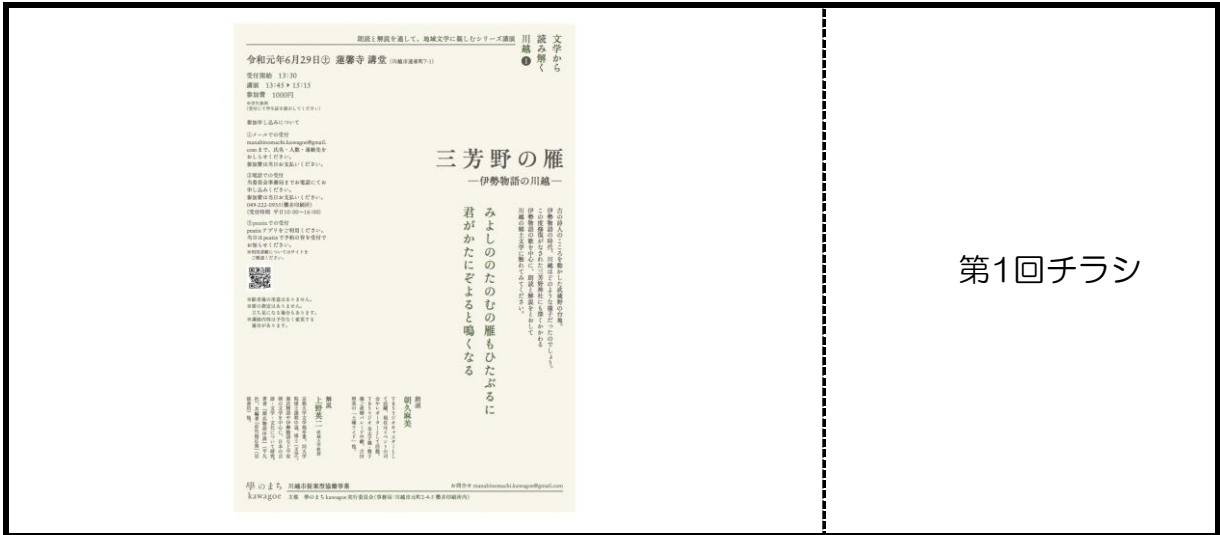
協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
 ・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評 価 の 視 点	実施段階	評 点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中前・中前・中	4	4	4
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中前・中前・中	5	5	5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中前・中前・中	4	4	4
4	互いの自主性・自立性を尊重し、行政と市民活動団体等が対等な関係で事業を実施できましたか。	後	5	5	5
5	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	4	5	4.5
6	事業目的に沿った事業内容を実施することができましたか。	後	4	4	4
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	4	4	4

合計点数	30.5 点
------	--------



第1回チラシ

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

自らが本を読むのではなく、朗読会という取り組みは、参加者それぞれが既知っている作品であっても、朗読者の読み聞かせによって新たな発見を得られる良い機会であった。また、川越市を題材としたことで、現代の川越市との対比等を参加者全体で共有することができた。

併せて、各回に解説を設けることでそれぞれの作品の時代背景、川越市の「まち」の移り変わりをより深く味わうことのできた本事業は参加者においても満足度の高い事業であったと考えられる。

単独でも成立する事業内容を組み合わせることにより事業全体の完成度が高まったとも考えられる。その手法を活かし、さらに発展した事業開催を今後も期待する。

【市民活動団体等】

各回とも約二時間半にもかかわらず、離席もなく多くの方にご来場いただけた。ただ子どもたちなど、若い世代へのアプローチが足りないので、今後はそちらも視野にいれようと考えています。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

		総合評価
A	3名	B
B	7名	
C	0名	
D	0名	

【事業に関するコメント】

- これまでにない新しい協働事業であるが、市民にも魅力的な興味深い内容である。市民の教養のアップにも役立つ。
- 行政のコメントそのものであります。今後、題材になった場所を散策しながら、当時と今を比較することも興味深いものがあります。

・ことによれば地味とも思われがちなテーマについて行われたユニークな事業であると感じました。

一方で、4回の朗読会を実施し、これを「川越」と関連づけた工夫は評価したいと思います。今後は若い人向けに、との話もありますが、実は最近の若年層の中には、こういった文化に興味をもつものも多いのではないかと思います。ですので、例えば教育委員会を通じて市立高校、中学校などへのアピールも考えられるのではないかと思います。

・単なる朗読会に終わらせるのではなく、各々作品の時代背景を解説したり、作品著者を招いての講演であったりと、参加者を飽きさせない工夫があり、それなりの成果があったと感じた。ただ、当初目的を達成するためには、若い世代をいかに巻き込むか等の工夫が必要と感じた。次回に期待します。

・朗読の良さを市民に発見してもらう機会になったのではないかな。

・4回目の回は、震災について思いをめぐらす機会となった。

・スマホ、AIと共生していく子どもたちに向けての事業も期待したい。

・川越ゆかりの本の紹介は、川越文化を伝えていく上でも良かった。

・市民の興味や関心も高く、人気の事業である。今後、企画や題材に工夫をこらし、継続されることを期待する。

・川越に特化したことにより、郷土に対する認識や愛着が深まり、良い事業となりました。また、朗読者のパフォーマンスも魅力があり、時間を忘れる内容と感じました。参加者も多く、是非、継続すべきと期待します。

協働事業評価シート

部課名	福祉推進課	令和元年度
記入団体名	新宿町五丁目自治会	

予算事業名	協働の推進	新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/>
-------	-------	--

協働事業名称	ゴゴさろん	
協働事業の概要	<p>【事業目的】 地域に根差した活動を54年取り組む中、迫りくる「2025年問題（超高齢化社会）」に対処するために、コミュニティの活性化と持続、そして日常の交流を目的とします。</p> <p>【事業内容】 新宿町五丁目自治会で毎月、地域集いの場「ゴゴさろん」を自治会集会所で開催する事業です。対象は、会場に来られた方どなたでも。月替わりで、趣味（工作・手芸・音楽・講演など）の体験をし、会場でお茶と「どんなときも」（いもの子作業所のパン店）のパンで、楽しい時を皆で共有します。参加者の満足感、実施者の達成感が、地域の活気へと広がり、人の繋がりがさらに深まる取り組みです。</p>	
協働事業の決算額	145,500 円	※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	平成31年4月23日 ~ 令和2年1月28日	

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	⑤

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評価の視点	実施段階	評価点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	4	4	4
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	5	5	5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	5	5	5
4	互いの自主性・自立性を尊重し、行政と市民活動団体等が対等な関係で事業を実施できましたか。	後	5	5	5
5	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	4	4	4
6	事業目的に沿った事業内容を実施することができましたか。	後	5	5	5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	5	5	5

合計点数	33 点
------	------

--	--

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】
 参加者が様々な人と交流し、会場設営を手伝う地域活動者になる集いの場は、生きがいづくりや地域コミュニティの活性化、継続に繋げることができるのだと実感しました。障害の有無や年齢・地域に関係なく参加できることで、新宿五丁目自治会だけではない広域的な活性化に繋がっています。そして、福祉推進課がゴゴさろんを先進事例の地域活動として発信することで、地域貢献や活動をしたいと考える人の相談や活動者同士の交流も行いやすくなり、川越市全体の地域コミュニティの活性化になると考えています。
 また、協働事業にしたことにより、年を通じて継続的に事業を実施することができ、参加者同士の繋がりも深く強くなりました。それにより、小さな子供達が多く参加するより大きな地域イベントを開催でき、多世代交流が増え、更なる地域貢献、活性化が可能になりました。より多くの地域課題の解決に結びつけるよう、来年からも継続して事業を続けていたいと考えております。よろしくお願いいたします。

【市民活動団体等】
 「ゴゴさろん」は、今年度協働事業という力強い応援をいただき、継続し、繋がり、広がる、大いなる効果が得られました。
 ・参加者や演者の輪が、住民や団体、企業を超えた繋がり・相互交流・イベント開催へ発展しました。
 ・「ゴゴさろん」の発展をうけ、新宿町地域では地区社会福祉協議会で「つどい新宿町」という各町巡回の集いの場が創設され、様々な集いの場が広がっています。
 ・集いの場「ゴゴさろん」から、次年度は社会参加や社会貢献を更に進める取り組み「アゴラ」の取り組みを始め、2025年度問題に対応できる地域を目指していきます。
 ・今年度、よろず相談や情報提供が増えました。一方で町内で死亡者減、問題事案の減少がみられたのは、「ゴゴさろん」が少なからず影響したものと信じたいです。
 次年度以降も「ゴゴさろん」「域活き秋まつり」を継続しよう、という声が運営者や参加者から挙がりました。今年度の助成に感謝申し上げますと共に、是非とも今後とも「ゴゴさろん」へ変わらぬお力添えを賜りますようよろしくお願いいたします。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

A	8名	当該協働事業を実施したことで、地域課題の解決につながるなど、適切な協働事業として評価できるものであった。	A
B	2名	ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	
C	0名	当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D	0名	協働事業としてうまく機能しなかった。	
総合評価			

【事業に関するコメント】
 ・社会の変化に対応した、まさに現代的な問題に対応した事業であり、協働事業としても良いと思う。
 ・このような取り組みは、地域包括ケアシステムのひとつと考えられます。継続が大切であり、欲張らずにコミュニティの掘り起こしをお願いします。

- ・協働事業にすることで、単なる自治会活動の枠をこえた取り組みができるようになったのではないかと思います。その意味では、協働事業として成功した事例として良いのではないかと思います。これが全市的な取り組みまで発展させることができるかどうかは、難しいところであるでしょうが、ひとつのモデルケースとして考えていくことはできるのではないかと考えます。
- ・参加いたしました。子供から高齢者まで楽しく交流しておりました。人数も多く、これは長く続けて欲しい事業です。
- ・超高齢化社会に対処するためには、コミュニティの活性化と持続、日常生活での交流を目指した活動を現実に即した自治会を通して始め、その波紋が他域地区に拡大していった事は評価される。この一種の運動が、川越市全体に拡大されることが期待される。
- ・1,200人も参加とはすごい。
- ・チラシを1,000部印刷したり、配布先を増やすなどの努力もすごい。
- ・演者・長又君をずっと町内で、シニアの方が応援するのも素晴らしい。
- ・自治会活性化のモデル事業といえる。
- ・交流会で福島から自主避難の会のメンバーと交流し、ゴゴさろんの9月の防災デーに参加することになった。
- ・地域活動に積極的に取り組んでおられ、「ゴゴさろん」はとても良い事業だと思います。来年度も継続していただき、多世代交流が増えることを願います。
- ・行政と地縁団体との協働事業は、その枠組みを広げ、敷居を低くすることなどから歓迎したい。
- ・とにかく、消極的になりがちな自治会活動に対し、参加する意義や主体観を感じさせてくれる取り組みと思います。地域デビューを云われる中で、積極的なシニアを取り組む良いイベントと感じます。
- ・行政にとっても、他の模範とすべきと考えます。継続して取り組みを期待します。